
.hack//G.U.reverse-of-crisis

黒屋敷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

・hack／／G・U・reverse－of－crisis

【Nコード】

N5422B

【作者名】

黒屋敷

【あらすじ】

・hack／／G・U・のその後の物語前作の主人公カイトが再びザ・ワールドの地に降り立つ

再開（前書き）

注意 ファンフィクションです！ 『当たり前だが』

再開

『一つの終わりは…新しい始まり…。俺達の旅はこれからも続いていく……。そうは思わないか?』

第三次ネットワーク・クライシスから1ヶ月が過ぎた。

ハセヲたちの活躍により大惨事には至らなかったもののネットワーク・クライシスが引き起こした爪痕はひどく、ザ・ワールドを運営しているCC社社が再びザ・ワールドを運営するまでには時間がかかった。しかし、ついに、この時が来た。そうザ・ワールドR2の再開である。

△サーバー“纏いし炎の墓標”

『イーーーーーヤッホオオオーーーーー!』

男は甲高い悲鳴のような叫び声を上げながら相手に向かって跳躍し、手に持った刀剣を振り下ろす

『くっ…ぐはっ!』

男と対峙していた相手はライフが尽きPCがモノクロ色に変化し倒れる

いわゆるゲームオーバーである。

『あはははは！聞いたかよ“ヒコ丸”今時（ぐはっ！）だよ！ははっ これだからPKはやめられないぜ！（、△、）』

『全くだぜ“トシゾー”ようやくザ・ワールドが再開したんだ 思いつきPKしまくろうぜ！』

彼らはヒコ丸とトシゾー。ここ最近までは初心者相手にPKを繰り返していたがさすが飽きて今度は中級者ばかりPKをしている成り上がりのPKグループである

『このままPKしてりゃあ、俺達間違はなくカオティックPKのリストに載るぜ（＜―＞）』

『だな。（、△、）』

『しっかしよお この前のニュース見たか？ 第三次ネットワーク・クライシスの』

『ああ 聞いた聞いた あれ、結局 CC社がどうにかもみ消したんだよな？』

『そうそう。結局何だったんだ？ 噂掲示板には誰かがウィルスを

ばらまいたとかハツカーの仕業とかの噂で持ちきりだったぜ』

『ふう〜ん ま、いーじゃん 戻ったんだし。さあ〜て 折角だから最深部まで行ってアイテムゲットしとくとするか』

『アイアイサー (^ | ^) v』

二人はダンジョンの最深部まで消費アイテム・逃避球を使いながら進んでいったこの方が無駄な戦いから避けられるし いちいちモンスターに見つかる何かと相手をするのが面倒なのでこの方法をしているのである。

再開（後書き）

初心者です 宜しくお願いします

再開2

獣神殿についた彼らは早速グチり始めた

『たく うぜえ モンスターだよなあ しかもゴブリン系が』

『全くだよ おかげで逃避球二個も消費しちゃったぜ ま、とにかく アイテムゝアイテムゝ』

トシゾーが獣神殿に収められている宝箱を開く

『どうだった？』

トシゾーはため息をついて言った

『だめだこりゃ カスアイテムだよ』

『んだよ！クソ！期待させやがって』

『ま、仕方ねえじゃん 中級レベルのエリアでも こう雑魚モンスターばっかりいるんじゃないアイテムが無いのも無理ねえな』

『ちえ、仕方ねえ 戻るとすつか…』

タウンに戻ることにした二人は獣神殿のすぐよこにあるタウンに一直線に転送できるワープ装置に近づき転送するようにボタンを押す……しかし

ブウウウン……………

『……………ん?』

『どした? 早くタウンに戻ろうぜ』

『ああ……うん分かってる』

トシゾーは気のせいかと思い再び転送装置にボタンを押すしかし

ブウウウウン……………

トシゾーは何度もボタン押したが転送されなかった。

『おい どうしたんだよ 早くタウンに行こうぜ』

『そ…それがよ転送できねえんだよ』

『はあ？何言ってんだ？んなワケねだろ』

トシゾーに代わり ヒコ丸が転送装置を押す しかし結果はさっきと変わらず 転送音だけして転送できなかった

『んだよ！クソ！故障か？』

『仕方ねえ 最初まで歩いて戻るか』

ヒコ丸は心底嫌そうに言った

『ええゝ（ゝ3ゝ） また 雑魚祭りの道 通んの？ かったるいなあ』

『だよなあゝ』

帰り道のことを考えた二人は心底悩んだが仕方なく来た時と同じ方法の逃避球移動を選ぶことにした

『仕方ねえから最初ん時と同じ方法で帰つかあ』

『そだな んじゃ 行くとするか……って え?』

『ん? どうした……って、え!?』

入り口のある方に振り向いた二人は驚愕した 何とさっきまであったはずの入り口が最初からなかったかのように綺麗さっぱり消えていたのだ。

『お、おい…これもなんか故障か?』

『しっ…知るかよ んなこと!』

『何なんだよ! ったく これじゃ 帰ろうにも帰れねえじゃねえ
かよ 最悪の場合端末リセットしかないじゃん』

『セーブしてないから、さっき奪ったアイテムも消えちまうじゃん
ああ! くそ!』

二人は愚痴を吐きながらあたりにある壁のデータなどに蹴りなどをしていた。しばらく時間が経つと二人はいがみ合いを初めていた

『だいたいな！てめえのせいだぞ トシゾー！こんなエリアを選んだてめえせいだ！！』

『んだと！？ヒコ丸！てめえだって（たしかにこのエリアなら誰か居そうだな）とか言ってるのってくれたじゃねえかよ ざけんな！』

二人はこの状況を他人せいになったと理由やら何やらをつけお互いにぶつけていた

『て、てめえ！やるか！？』

『おうよ やってやら！どうせ消えるなら最後に誰かPKしねえと腹の虫が収まらねー！』

二人が仲間割れをしようとした その時

ポオオオオオオオオオオオオオオン……………

二人のいるエリアで妙な音が響いた。どこかで聞いたことのあるようにでないような感じの音響 長くトーンを感じさせる低くて耳によく伝わる音だった

『な、なんだ？今の音』

『さ、さあ…？』

二人が音に気を取られていると

バチッ バチバチッ

二人の後ろの方で何か電気が放電したような音が聞こえた 驚いた二人は振り向くと

『なっ なんだ！？ こいつ……』

『いつの間に俺たちの後ろに……』

二人が後ろで見たもの それは奇妙な形をしたモンスターだった、黄色いスライム状の鉄アレイのような形状のモンスター 見たこともない 二人が初めてみるモンスターだった

『トシゾー このモンスター知ってるか？』

『知らねえよ こんなモンスター 今まで見たことない！』

鉄アレイのモンスターは二人を観察するように宙に浮いていた

『とにかく ここ一回 端末リセットしようぜ また今度出直そうぜ』

『ああ そうだな ヒコ丸 んじゃ さっそく』

二人は現実の世界にいる自分たちの体を動かそうする だが 体がまったく動かなかった。

『あれ……う、嘘だろ！おい！なんで動かないんだよ！』

『トシゾー！俺の体が…リアルの体がまるで言うこと聞かねえよ！』

『お前もか！？ 俺もだ どうなってんだ！これ』

二人は自分たちのリアルの自分が命令を聞かないことに半狂乱に陥り、不安と恐怖に包まれた

『これはただの“ゲーム”だ。なんかの間違いだろ！』

『うるせえ！ そんなこと知るか！』

叫び合う二人　すると鉄アレイのモンスターが急に動き出しそして

しゅつつつつ……！

鉄アレイのモンスターの体から触手のようなものが飛び出しヒコ丸を貫き串刺しにした

『ヒコ丸！！』

トシゾーはヒコ丸に向かって叫ぶ

『うつ……あ、……あがつ……痛……てえ……なんだよ……これ　うつ……
……うああああああああああああ……！！！！』

ヒコ丸のP Cが輝きだし、ヒコ丸の悲鳴が響く

そして

パツツリイイイイン

ガラスが碎けるような音が響き　ヒコ丸のP Cが破片を飛び散らし
消滅した

『……………』

それを見たトシゾーは一瞬何が起きたのか理解できず　ただ　その

場に立ちすくんでいた

『オオオオオオオ』

鉄アレイのモンスターが初めて鳴いた。しかしそれをトシゾーの精神を崩壊させる恐怖の鳴声だった

『うつ…うわあああああ！誰か！助けてくれ！頼む！誰かあああああ！』

トシゾーは入り口のあったところに向かい必死に叫ぶ。

『頼む！誰でもいいから助けてくれええええ！』

何度、壁に叫んでも誰も答えずトシゾーは絶望した

『オオオオオオオオオオオオオ…』

鉄アレイのモンスターは再び鳴き、トシゾーの居るところにゆっくり確実に近づくそして 触手を突き出す

『頼む…誰か…う…うつ……うあああああああああああ！』

触手に串刺しになったトシゾーはその場で消滅した。

後にリアルで二人の中学生が自分の部屋で意識不明な状態で発見されたことがニュースで報道された

再開2（後書き）

へたっぴですいません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5422b/>

.hack//G.U.reverse-of-crisis

2010年11月27日06時16分発行